

國司の乘馬小荷駄を撰む、其後は朝五ツより暮七ツ時を限りて賣買市あり、馬主馬を引來れば、買主これを見て、仲買に頼みて其あたひを定むる也。仲買馬主を打擲して、其あたひの高下を定め賣買すること也。

〔日本山海名物圖繪四〕天王寺牛僧

備前備中の國おほく牛を飼て子を産す、則これを大坂天王寺におくる天王寺孫右衛門と云者、牛市のつかさなり、此人の印形なれば、諸國に賣買すること叶はずと也。年中備前備中より牛を引來ること日々にたえず、毎年霜月に牛市あり、近郷の百姓思ひくに牛を引來りて、互に交易賣買す、これを牛博勞と云、すべて牛を商ふに直段相定る時は、互に牛に米をかましむ、是を賣買の證據とするかや。

〔延喜式四十ニ市〕馬驥略○中

右五一驥東市

牛驥右卅三驥西市

牛名稱

牛驥

〔倭名類聚抄十一〕牛驥四聲字苑云、牛語丘反、和名字之、土畜也。爾雅注云、犧古字讀之、牛子也。

〔箋注倭名類聚抄七〕北魏書禮志云、牛、土畜、說文、牛事也、理也、象角頭三封尾之形、釋獸牛屬云、其子犧、郭注云、今青州呼犧爲犧、無牛子也之文、此所引、或是舊注、按文選江賦云、犧犧翹陸於夕陽、注引爾雅注云、今青州呼犧爲犧、犧犧牛之子也、犧與犧同、胡克家曰、爲犧犧當作爲犧犧、邵晉涵曰、注犧字衍、宋板六家文選、爲犧下有然此二字、愚謂當作今青州呼犧爲犧、然此犧牛之子也、犧與犧同、言爾雅注謂青州犧呼犧、犧犧同字、則賦所謂犧者牛之子也是、今青州呼犧爲犧、七字、郭注然此以下十一字、李善引爾雅注解賦文犧字之語、非爾雅注文、恐源君從文選注引之所見本亦無然此二字、以李善犧牛之子也之語誤爲爾雅注文也、又說文、犧、牛子也、或此誤引說文未可知也。

〔段注說文解字二上〕半事也、理也、牛依乎天理批大卻道大竅牛事理三字同在古音第一部此興羊